

【天気予報】

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)
2015年	21.6	25.6	18.0	166.0
2016年	22.6	26.9	19.2	234.5
2017年	22.0	26.8	17.7	140.0
1981~2010年	22.6	26.6	19.2	169.0

※気温については、1ヶ月の平均値

【作物】

水稻の管理

1 病害虫防除

「フルターボ箱粒剤」を1箱当たり50g施用(移植当日)して下さい。
いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、ウンカ類、コブノメイガの総合防除剤です。

2 水田雑草防除(除草剤散布)

農薬名	使用時期	使用量/10a	使用回数
コメットジャンボ	移植後5日~ルビエ2.5葉期	30gパック10個	1回
ジェイフレンド フロアブル	移植後5日~ルビエ3葉期	500ml	1回
カチボシ1和粒剤51	移植時・移植直後~ルビエ2.5葉期	1kg	1回
銀可1和粒剤	移植時・移植直後~ルビエ3葉期	1kg	1回
クサトツタ粒剤	移植時・移植直後~ルビエ2葉期	3kg	1回
ガンガン豆つぶ250	移植後3日~ルビエ2.5葉期	250g	1回

【使用上の注意点】

- 高低差がないよう均平に耕起・代かきし、丁寧に畔塗りして漏水防止に努めましょう。
- 除草剤散布後3~4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにしましょう。
- 除草剤散布後7日間は落水、かけ流しはしないようにして下さい(田面が露出し、入水が必要な場合はゆるやかに入水しましょう)。
- 藻類の発生が多い場合は、薬剤の拡散が妨げられるので、ジャンボ・フロアブル・豆つぶ剤は注意しましょう。

<松本>

【野菜】

雨が多くなると病害の発生が予想されますので、マルチや敷きワラを行い土壌からの病原菌の飛散を抑制すると共に、通風や採光を良くするために適宜、枝や葉の整理に努めましょう。また、長雨で畝溝に水が停滞すると根傷みを起こし株が弱るので注意して下さい。

1 きゅうり

収穫期を迎える頃に親つるの古い葉を段階的に摘葉し、出てくる若い側枝に十分光を当て、新葉の発生を促します。

収穫開始後は、通路の土壌水分が安定する状態を保つよう灌水を行い、過乾や過湿を避けるとともに、定期的に追肥をして下さい。

2 トマト

降雨や曇天により光合成量が低下すると落花の原因となるため、適切なホルモン処理を行い、着果促進に努めて下さい。

また、降雨が続くと、疫病、葉かびなどの病害が多発するため予防散布を行って下さい。

3 なす

仕立ては、第1花の下の腋芽と第2花の下の腋芽を活かして3~4本の主枝を取ります。

追肥は、収穫始め以降、肥料切れしないように続けて下さい。土壌の乾いた状態が続く時は灌水も同時に行ってください。

4 かぼちゃ・すいか

本葉5~6枚で摘心し、子づる3~4本仕立てにするのが一般的です。最初の着果節位までは、発生する孫づるをすべて切除しましょう。

<渡邊>

【栗】

今月は、クリの開花期です。この頃になると、新梢伸長量や着粒量などから、作柄の予想ができます。安定生産のためにも次の点に留意し管理作業を行って下さい。

1 夏肥の施用

6月中旬~下旬が夏肥の施用時期です。果実肥大を促すために必要な肥料ですので、事前に除草作業を行い、肥料が効果的に吸収されるようにしてから施用して下さい。施用量は、目標収量400kg/10aの場合、成分量で窒素4kg、リン酸2kg、加里5kg/10aです。

2 病害虫防除

(1) クリイガアブラムシ

開花時から収穫期まで毬果を加害し落果させます。毬果への寄生は6月下旬から始まり、寄生を受けた毬果は発育が止まり、イガは褐変して8月前半までに落果します。遅く寄生を受けたきゅう果は、収穫期前の未熟果で裂開(若ハゼ)します。防除は、開花後6月中下旬に、アドマイヤー水和剤1,000倍を散布して下さい。

(2) シロスジカミキリ

6月になると樹の主幹部に円形の傷が見かけられるようになります。これは産卵痕です。傷の1cm程度上を木槌で軽く叩いて卵をつぶしておきましょう。

(3) 炭疽病

樹体の枯れ込み、枯れ枝が病原菌の発生源となります。6月中旬~8月までの間にベンレート水和剤2,000倍を2~3回散布して下さい。

<可部>

【シキミ】

1 炭そ病

葉の縁から褐色の不定形病斑が形成されます。激発するとほとんど落葉します。5~8月に発生が多くなります。

2 シキミグンバイムシ

葉裏に寄生して吸汁加害し、葉の表面が白いカスリ状になります。葉裏に糞や脱皮殻が付着して外観が悪くなります。4月~10月まで増殖を繰り返します。

3 フシダニ類

体長が0.15~0.2mm程度で、寄生し吸汁すると葉にまだら色のモザイク症状・紋々症状が発生し、黄化したり奇形葉になります。

4 防除薬剤

定期防除として6月下旬~7月上旬に、殺菌剤のベンレート水和剤2,000倍、殺虫剤のオルトラン水和剤1,000倍、ダニ剤のピラニカEW1,000倍を混用散布して下さい。

茶園や他の作物が隣接して栽培されている場合や、ミツバチの巣箱の近くでは農薬の飛散に十分注意して下さい。

<日野>

【茶】

1 チャトゲコナジラミ対応

チャトゲコナジラミの多発で、すす病が著しい場合はせん枝で深刈りし、卵や幼虫の寄生部位である下葉を除去します。

この害虫の天敵シルベストリコバチは農薬に弱いので、他の作物に散布した農薬が茶園に飛散しないよう注意して下さい。

2 一番茶後の整枝と遅れ芽の剪除

良い二番茶を取るため、一番茶摘採7~10日後に整枝を行い、深さは一番茶の遅れ芽を除去する程度に浅く摘採面を揃えて下さい。

一番茶の整枝の程度により、遅れ芽が出てくるので剪除して下さい。

遅れ芽が二番茶に混じると品質が低下します。

3 二番茶の摘採

一番茶摘採後、約45日で二番茶の摘採ができます。新芽が硬化しやすい時期であるため、摘採期(出開度50~80%)を逸しないように注意して下さい。また、気温が高いため、摘採した生葉のむれや葉傷みに特に注意して下さい。

二番茶の摘採や後の浅せん枝を行うことで病害の防止になるとともに、翌年の一番茶の芽数を増やし増収につながるため、できるだけ摘採して下さい。

<日野>